

瀬戸内海における赤潮の状況について

瀬戸内海における赤潮の発生海域について、図-1から図-7に示す。昭和35年頃は、局所的に赤潮の発生がみられた。昭和50年には、広範囲にわたる赤潮の発生がみられたが、その後の発生海域は縮小の傾向にある。

また、平成14年の赤潮の発生海域（図-7）と、窒素及び磷の濃度が高い水域（図-8、図-9）とを比較すると、概ね重なる傾向にある。

次に、海面魚類養殖業の分布について図-10から図-11に示す。ぶり類養殖及びまだい養殖の収穫量は、豊後水道及び播磨灘南部で多くみられる。海面魚類養殖業が盛んな豊後水道及び播磨灘と、それ以外の湾灘に分けて赤潮の発生件数を示すと、図-12のとおりである。



〔図-1 赤潮発生海域（昭和35年頃）〕

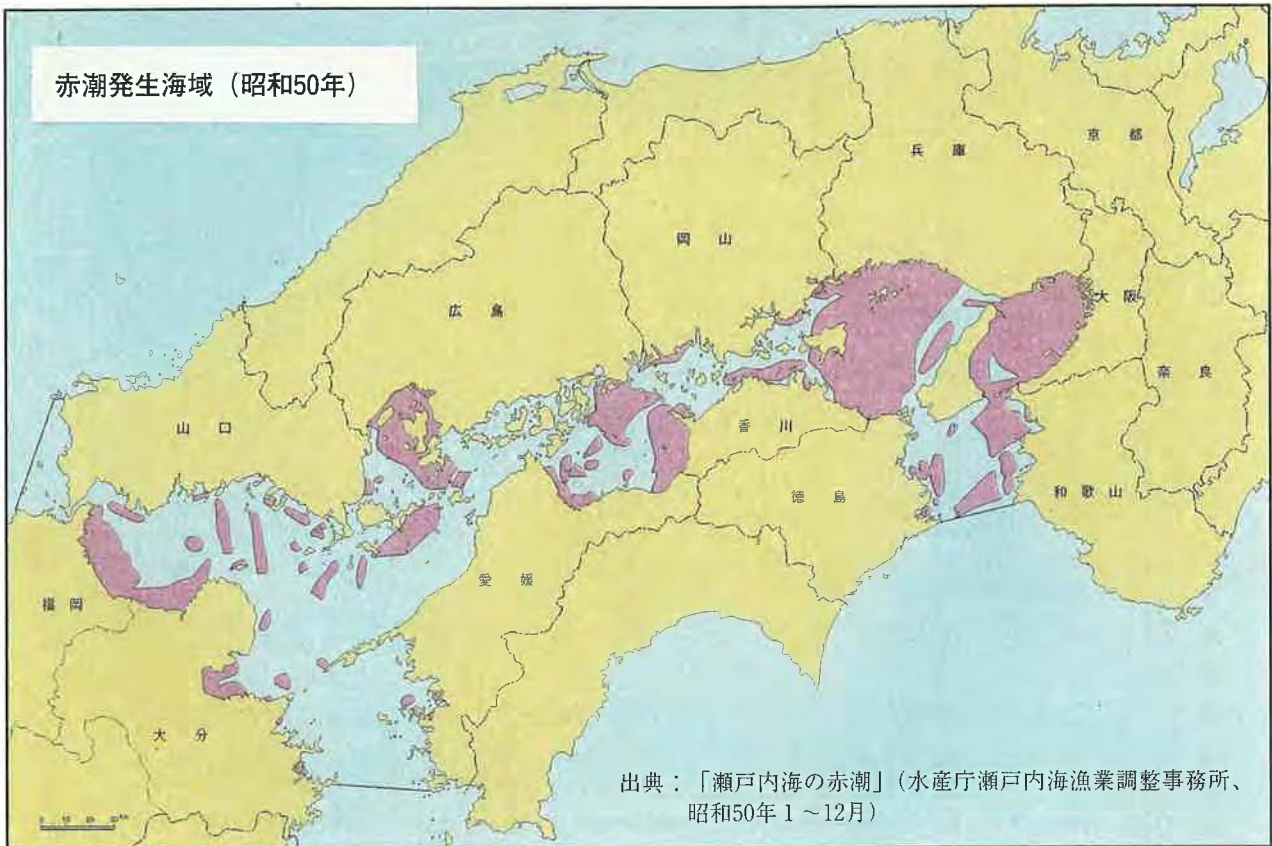


図-2 赤潮発生海域（昭和50年）

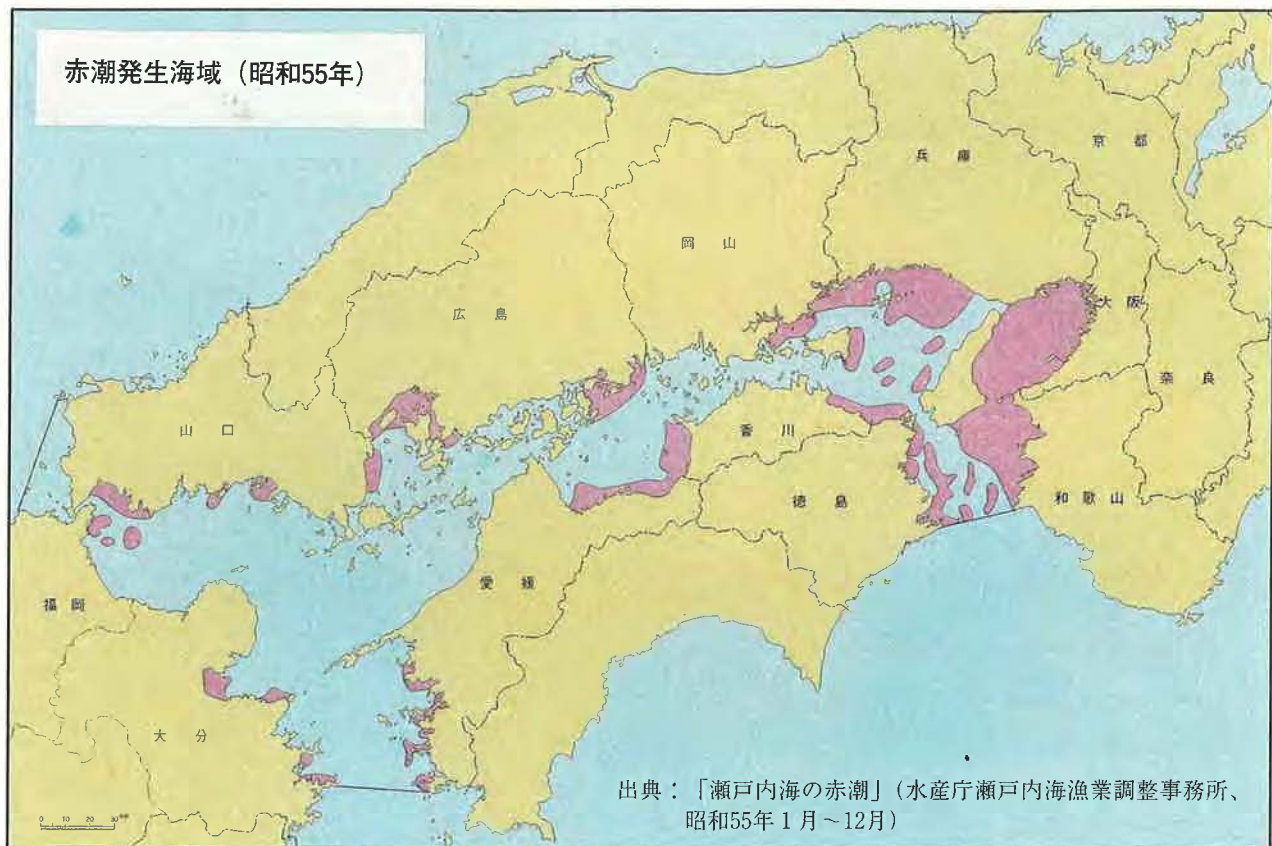
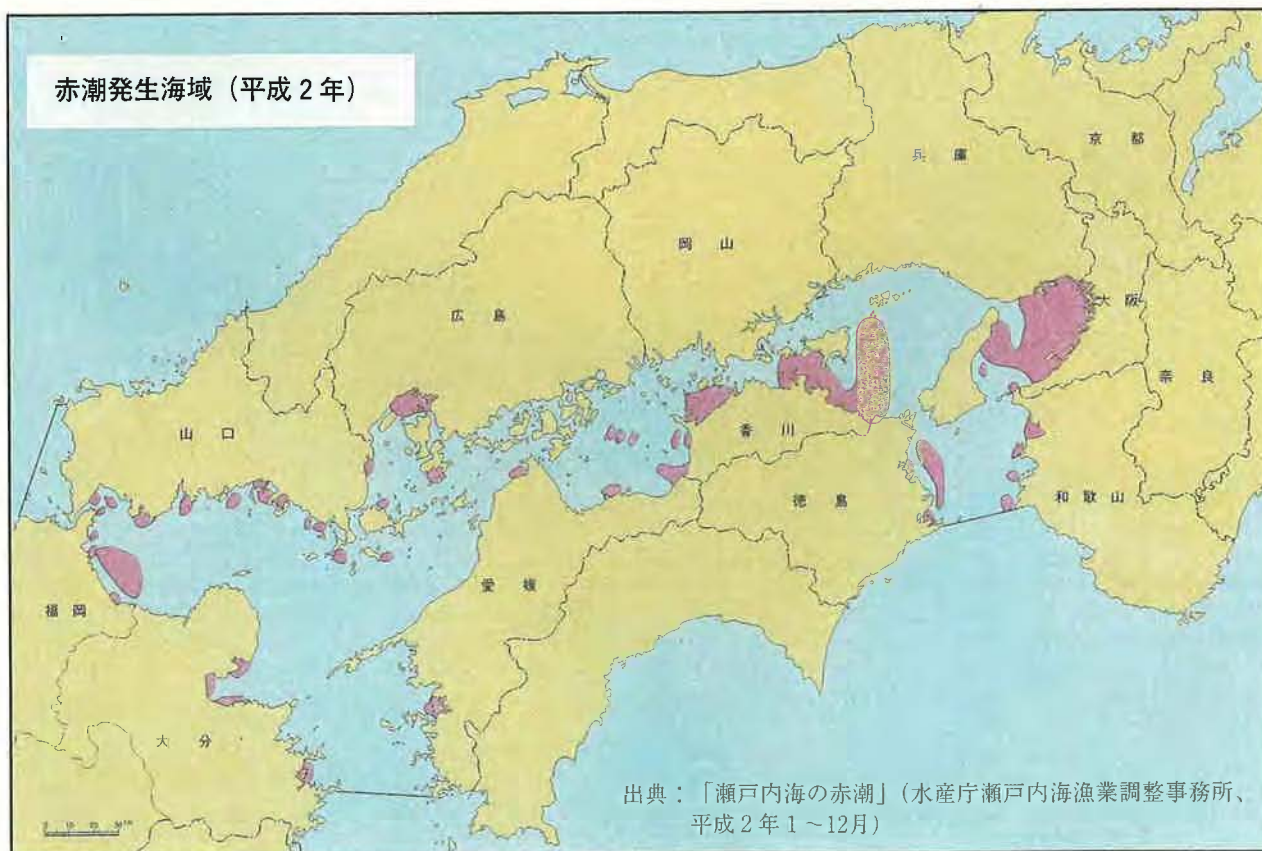
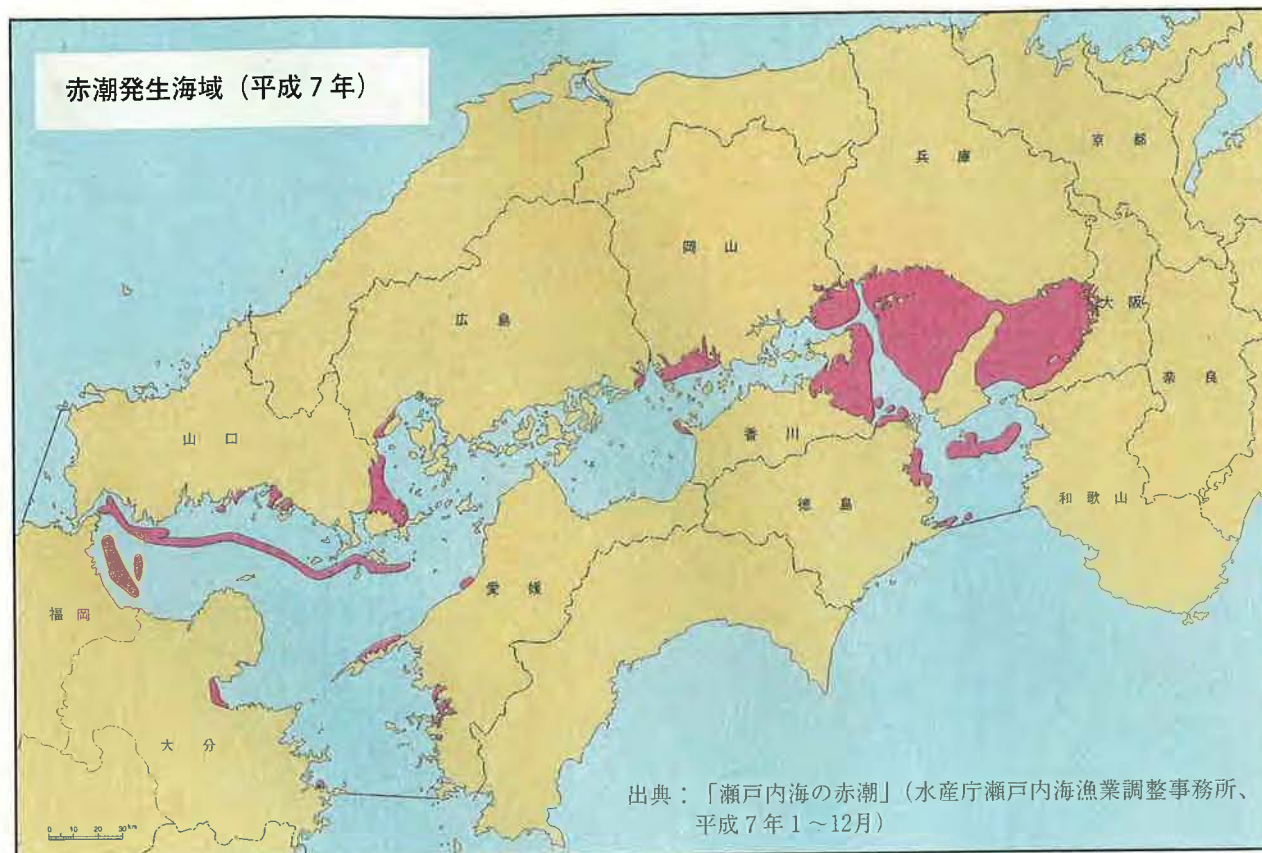


図-3 赤潮発生海域（昭和55年）



図一4 赤潮発生海域（平成2年）



図一5 赤潮発生海域（平成7年）